

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	びーすの児童デイ びころ		
○保護者評価実施期間	令和6年1月20日		令和6年2月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	令和6年3月1日		令和6年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年9月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達障害の特性に合わせて構造化された環境や支援の物を提供している。	個別課題は、児童に興味の偏りがある場合、その興味関心を活かした課題を用意することで、少し苦手という程度の事に取り組みやすくしています。	個別スケジュールを用意し、自分で活動の流れをチェックしてもらい、見通しを持って活動の切り替えをする練習を行っている。
2	同じ障害をお持ちの先輩母たちからのアドバイスが聞ける、座談会やセミナーを定期的開催している。	保護者の方が困っている事について、話をじっくりと聞きながら寄り添い、よりよい方向に導けるように一緒に考えていく関係性を築いていく。	保護者同士のつながりが持てるような集いをもっとできたらと思っている。働いている保護者の方が多いので、平日以外でそういった集いのできたらと思っている。
3	児童が楽しく通える雰囲気作りや、保護者の方も含めて満足してもらえるようなプログラムを用意している。また、スタッフも保育士などの資格・経験のある者を配置しています。	基本的には、『褒める』『認める』『評価する』ことで、児童自ら意欲的に取り組みたくなるような関わりを意識して行っています。	定期的にスタッフ間で勉強会を行い、支援内容を考えたりして、知識を深めるなど、スキルアップを図っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	カームダウンする部屋を作れていない。	スペース的に個別の部屋を作ることが難しい。	子ども用のテントを用意し、部屋の端でその中でカームダウンできるように工夫している。また、聴覚過敏のお子さん用にイヤマフ、または感触グッズなどを用意してリラックスできる空間作りをしている。
2			
3			